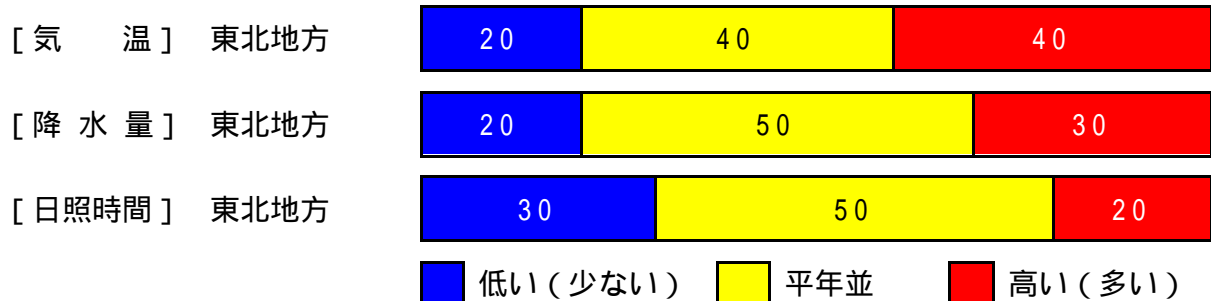


東北地方 1 か月予報の解説（予報期間：7 月 21 日～8 月 20 日）

平成 13 年 7 月 20 日 仙台管区气象台

1．向こう 1 か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（％）



[気 温]: 東北地方は「平年並」か「高い」の可能性が大きく、その確率はそれぞれ 40％です。「低い」の可能性は 20％と小さい。

[降 水 量]: 東北地方は「平年並」の可能性が最も大きく、その確率は 50％です。「多い」の可能性が次に大きく、その確率は 30％です。「少ない」の可能性は 20％と小さい。

[日照時間]: 東北地方は「平年並」の可能性が最も大きく、その確率は 50％です。「少ない」の可能性が次に大きく、その確率は 30％です。「多い」の可能性は 20％と小さい。

2．予想される天候の特徴

（もっとも高い確率の予報が実現した場合の天候は以下の通りです。）

向こう 1 か月

太平洋高気圧に覆われ平年と同様に晴れて暑い日が多いですが、期間の中頃を中心に前線や寒気の影響を受け易く、雨や雷雨となる時期もあるでしょう。

平均気温は平年並か高いでしょう。

向こう 28 日間の平年の晴れ日数：東北地方で約 15 日

各予報期間の天候の特徴

1 週目…………… 期間の初めは大気の状態が不安定なためにわか雨の所があり
(7 月 21 日～7 月 27 日) ですが、その後は高気圧に覆われて概ね晴れる見込みです。

平均気温は高いでしょう。

平年の晴れ日数：東北地方で約 4 日

2 週目…………… 太平洋高気圧に覆われ晴れて暑い日もありますが、前線や寒気
(7 月 28 日～8 月 3 日) の影響で雨や雷雨となる日が多いでしょう。

平均気温は平年並でしょう。

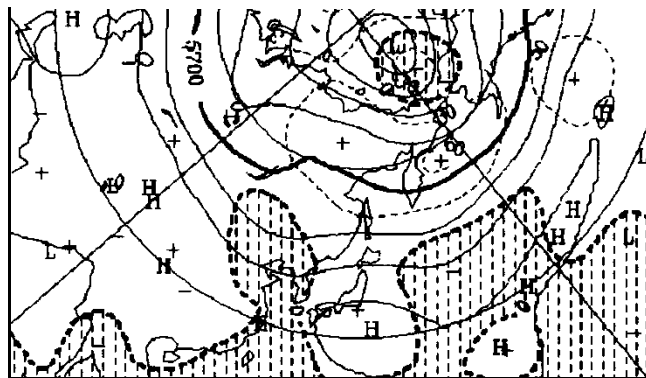
平年の晴れ日数：東北地方で約 4 日

3～4 週目…………… 太平洋高気圧に覆われ平年と同様に晴れて暑い日がありま
(8 月 4 日～8 月 17 日) すが、前線や寒気の影響で雨や雷雨となる時期もあるでしょう。

平均気温は平年並でしょう。

平年の晴れ日数：東北地方で約 8 日

予想される天候に関する循環場の特徴（アンサンブル平均天気図）

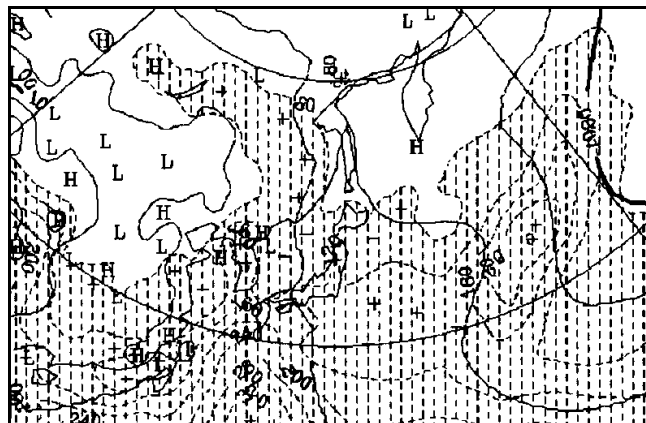


月平均の 500hPa 高度・偏差
(等高度線：60m 毎、偏差：30m 毎、陰影部：負偏差)

・ 500hPa 高度・偏差

月平均で見ると、日本付近では太平洋高気圧の勢力が強く、正偏差に覆われる。一方、太平洋高気圧の西への張り出しは弱く、東シナ海から華北にかけては負偏差で西谷傾向となる。

週別（図略）では、2 週目、3～4 週目共に月平均と同様で、日本の南で太平洋高気圧の勢力は平年並程度に強いが、東シナ海から華北にかけてと日本の東で負偏差が広がり、前線や寒気の影響を受け易い。

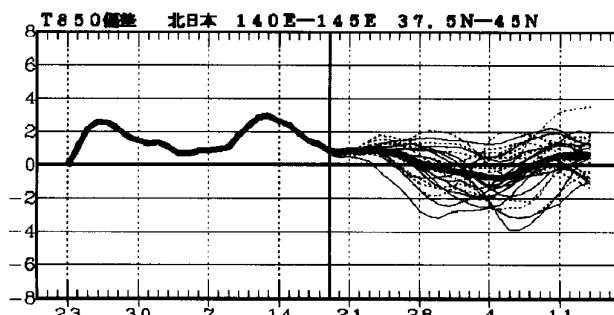


月平均の地上気圧と降水量
(等圧線：4hPa 毎、降水量：40mm 毎、陰影部：80mm 以上)

・ 地上気圧と降水量

月平均で見ると、日本付近は太平洋高気圧に覆われるが、日本海や日本の南岸から日本の東海上にかけては等圧線にくびれが見られ、低気圧や前線の影響を受ける時期がある見込み。降水域は広く日本付近に広がり、500 hPa 高度偏差の負偏差域に対応して南海上から九州、朝鮮半島にかけてまとまった降水域が予想される。

週別（図略）では、2 週目、3～4 週目共に月平均と同様で、日本付近は太平洋高気圧に覆われるが、低気圧や前線に対応する等圧線のくびれが見られる。



北日本 850hPa の気温平年差の実況と予想
(縦軸：気温平年差 () 横軸：日付)
発表日以降の太線は各アンサンブルメンバー（細線）の平均値

・ 北日本 850hPa 気温平年差の時系列

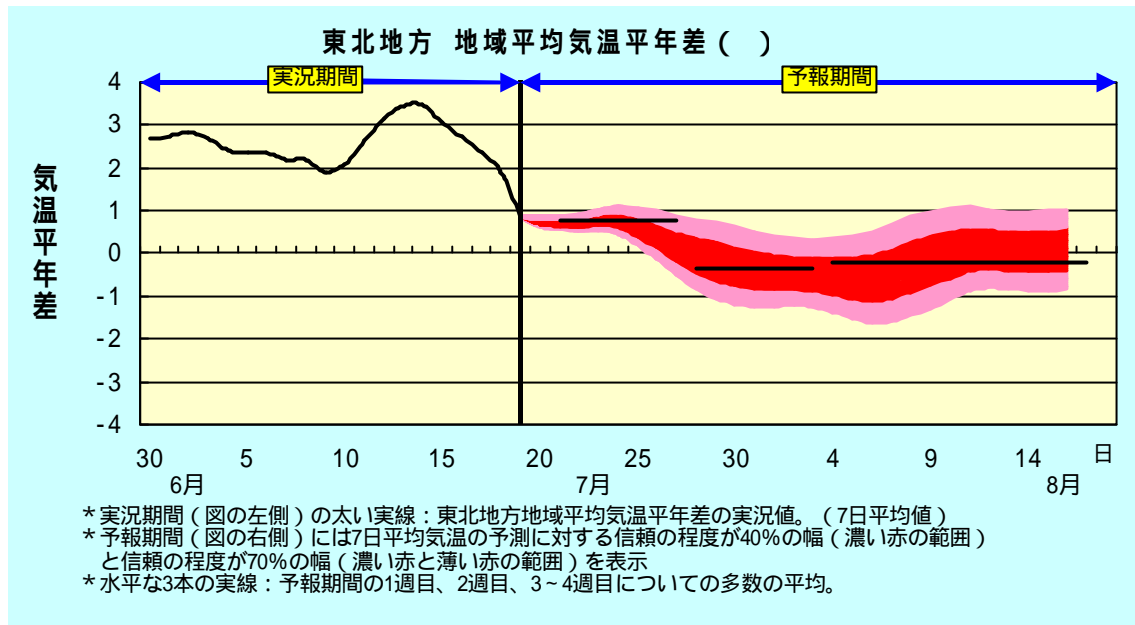
アンサンブルメンバーの平均は、期間を通して概ね平年並。1 週目は平年を上回るが下降して、2 週目～3 週目に平年を下回る。しかし、4 週目には再び平年を上回る。

また、各アンサンブルメンバーは 2 週目以降バラツキが大きい。

3．東北地方地域平均気温平年差の実況と予測結果

週別の気温は、1週目、2週目、3～4週目共に「平年並」を予測している。ただし、1週目の気温は週間予報の資料から「高い」に修正する。

なお、予報の信頼度は大きいと考えるが、この時期は太平洋高気圧の動向や台風など予測の難しい時期であることに留意する必要がある。

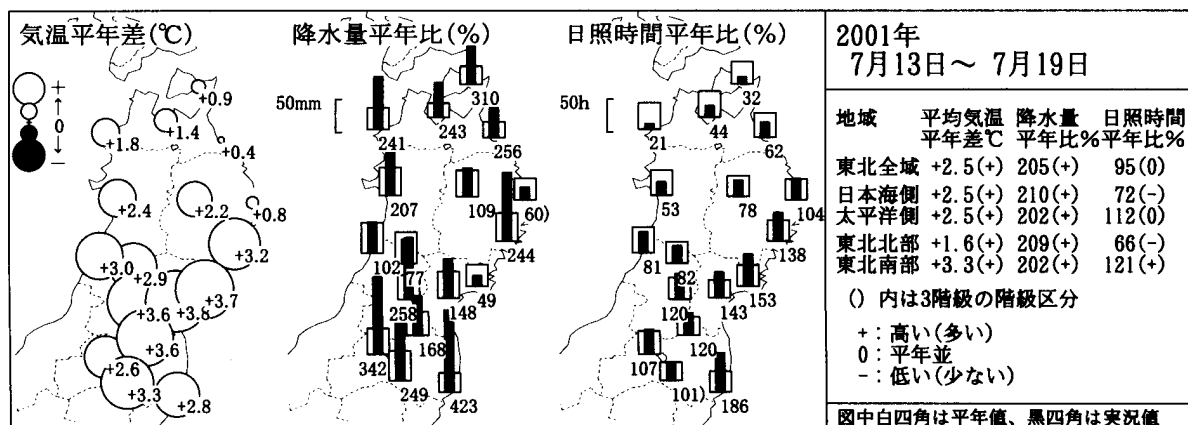


4．最近1週間（7月13日～7月19日）の天候の経過

期間の中頃にかけては、梅雨前線が東北北部にほとんど停滞し、東北南部は概ね太平洋高気圧に覆われた。このため、東北北部では曇りや雨の日が多かったが、東北南部は晴れて暑い日が続いた。また、前線に向かって暖かく湿った気流が入りこんだため大気の状態が不安定となって、東北南部を中心に雷雨となる日が多かった。

期間の終わりには梅雨前線が南下し、オホーツク海に中心を持つ高気圧に覆われた。このため、東北太平洋側を中心に曇りや雨となり、厳しい暑さも一段落したが、上空には強い寒気が入ってきて大気の状態が不安定となり、各地で雷雨となった。

平均気温は、東北地方で平年差+2.5 と高く、特に東北南部では高かった。降水量は、東北地方で平年比 205% と多かった。日照時間は、東北北部で平年比 66% と少なく、東北南部で平年比 121% と多かった。



最近1週間の平均気温、降水量及び日照時間の平年差（比）